

- ◆ 成功事例・参考事例を募集しています
→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- ◆ 質問・提案をお寄せください
→ advice@ppscamp.net
- ◆ HSMR登録病院・HSMRモニター病院、募集中
HSMR登録病院 (募集期間を2010年1月末まで延長します)
→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>
HSMRモニター病院
→ <https://kyodokodo.jp/partners/index.php>

CONTENTS

- 1 フォーラム・セミナー等のご案内
- 2 進捗状況をフィードバックしました
- 3 「パートナーズの活動」のページが新しくなりました
病院の活動紹介／アンケート調査報告(目標3b)
参加・協力団体の活動紹介／日本慢性期医療協会
- 4 いわて公開フォーラムが開催されました

1 フォーラム・セミナー等のご案内

8目標に関連するセミナー、シンポジウム、講習会

NEW! CPR講習会 ～ICLS・ACLS・BLS・PALS講習会 (目標6に関連)

2009年12月～2010年3月の講習会をご案内しています。

* <http://kyodokodo.jp/doc/event/091211CPR.xls> をご覧ください。

弾性ストッキング・コンダクター講習会 (目標2に関連)

日時: 2010年1月23日(土) 会場: アスピラート [防府市地域交流センター] (山口県)

日時: 2010年3月20日(土) 会場: 京都会館大会議場

京都講習会のホームページが開設されましたので、ご覧ください。

<http://us-lead.com/sscc-knk/index.html>

NEW! 日時: 2010年10月30日(土) 13～17時
会場: 杏林大学 大学院講堂 (東京都)

主催: 日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

<http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

2 進捗状況をフィードバックしました

進捗報告をお知らせいただいた病院のマイページへ、進捗状況をグラフにしてフィードバックいたしましたので、ご覧ください。

3 「パートナーズの活動」のページが新しくなりました

病院の活動紹介

中心静脈穿刺(目標3b)に関するアンケート調査報告 (2009年11月23日)

2009年11月23日15:10から東京ビッグサイトで開催された「行動目標3bワークショップ」は、約60名の参加者を得て、諏訪中央病院小林先生と公立陶生病院長谷川先生に取り組み事例をご発表いただいた後、アンケートをもとに中心静脈穿刺に関する安全対策についてディスカッションを行いました。

その後、同アンケートを回収させていただき、その集計から参加施設での悩める状況、またこのワークショップから今後の活路として何を求めることができたかを垣間見ることができたのでご紹介します。

〈アンケートの質問内容〉

- Q1** 本日の2施設の事例発表を聞き
「うちでもできそうだな、やってみよう」と思われた事項は何でしたか？
- Q2** 「これはうちではできないな」と思われた事項は何でしたか？
- Q3** Q2の理由を考えてみてください。それはどうしてできないと思われましたか？
- Q4** 自施設でのCVCの安全な挿入に関する問題点、
またその原因は何だとお考えですか？
- Q5** 今後、医療安全全国共同行動の活動として期待されることがあればお書きください。
- Q6** 今回のワークショップ全体の感想をお聞かせください。

→[アンケート結果を読む](#)

*公開ページ、パートナーズ専用ページ共、[トップページ／メニュー](#)からご覧ください。

「パートナーズ」→「[パートナーズの活動](#)」→「[病院の活動紹介](#)」

[中心静脈穿刺\(目標3b\)に関するアンケート調査報告\(2009年11月23日\)](#)

参加・協力団体の活動紹介

日本慢性期医療協会の活動

●急性期連携委員会 副委員長 飯田 達能

日本慢性期医療協会では800病院ほどの慢性期医療を担う全国の医療機関が会員です。その会員病院に対してポスターやチラシを配布し参加協力を呼びかけています。

急性期病院へのDPCの導入、平均在院日数の短縮などから、転院をスムーズに進める中、慢性期医療を担う療養型病院の入院患者は重度化してきております。そのため当協会では、慢性期医療の質向上を目的に慢性期医療に特徴のある脳血管疾患、認知症、褥瘡、感染症などの治療、栄養療法、輸液療法、薬物療法、リハビリテーション、外科的処置、口腔ケア、終末期医療、身体抑制の廃止など80分24単位に及ぶ認定講座を6日間行い、これを年間2～3回開催しています。参加者は毎回200名ほどの医師や看護師です。院長・理事長も含

まれています。この認定講座の医療安全の内容の講座では、医療安全の歴史、概念の変化、医療事故の統計、実際の医療事故の内容やその対応、対策までの経緯、手法(RCA)を示し、KYTを数例、各小グループに分かれて検討する流れで行ってきております。その講座の中で「医療安全全国共同行動」を周知させていただいております。実際に病棟で勤務されている医師や看護師に、経管栄養管理の仕方について聞いてみると、試験紙を利用しているところは少ない状況でした。胃内容液の逆流が確認できないときには、レントゲン確認できるまでは経管栄養を行わず、それまで補液管理していると答えられる方が多いようでした。また、危険薬管理では、「医療安全全国共同行動」に参加されている病院の医師で、インスリン使用でスライディングスケールを院内統一化し、常勤内科医師数分あったスライディングスケールが簡素化し、間違いのリスクを軽減し、医師への問い合わせの件数も少なくなったとの話がありました。

今後とも同講座の中で、「医療安全全国共同行動」に参加されている職員のよかった点を聞くことにより、参加されていない病院の職員が参加したくなるようにと協力させていただきます。

*公開ページ、パートナーズ専用ページ共、[トップページ／メニュー](#)からご覧ください。

「パートナーズ」→「[パートナーズの活動](#)」→「[参加・協力団体の活動紹介](#)」

[日本看護協会の活動](#) (本誌No.7に掲載)

[日本慢性期医療協会の活動](#)

4 いわて公開フォーラムが開催されました

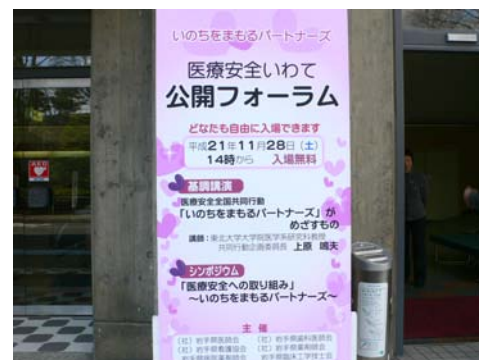
「医療安全いわて公開フォーラム～いのちをまもるパートナーズ～」報告 医療関係者の連携で安全な医療体制の確立を

岩手県医師会 会長 石川 育成

平成21年11月28日(土)午後2時から、「医療安全いわて公開フォーラム」が岩手教育会館で開催された。今回のフォーラムは医療安全全国共同行動の一環として行われ、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県看護協会、岩手県薬剤師会、岩手県病院薬剤師会、岩手県臨床工学技士会の六団体の主催であった。

六団体を代表して、岩手県医師会の石川育成が「医療安全対策として、今回初めて医療関連六団体の主催で行われることは意義深いこと」と挨拶した。六団体の会長が紹介された後、基調講演が行われた。

基調講演は、東北大学大学院医学系研究科教授・共同行動企画委員長の上原鳴夫先



生が「医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”がめざすもの」と題して約1時間の講演を行った。上原先生は講演の中で、「医療に伴う傷害／有害事象: Medical Harm」について説明した後、アメリカにおいて年間



500万件とも言われる有害事象を未然に防ぐために、多くの病院がこのキャンペーンに参加した経緯について述べ、さらに有害事象を未然に防ぐため、Human errorをカバーするシステムを確立し、そのシステム構築に向けてあらゆる職種のひとが共通意識を持ち、さらには一般市民の意識を高めていくことの必要性を強調した。

その後以下のとおり、五団体からそれぞれの立場で意見発表が行われた。

●**医師の立場から(岩手県医師会常任理事 逢坂宇一)**

人間は間違いやすい(To err is Human)という認識に立った上で、医療行動を行うべきであり、その代表的な事として「手術前のTime-out」を紹介した。その他、感染症対策として「標準予防策:Standard-precautions」の励行の重要性を説き、さらには点滴の作り置きは絶対にしない、など医療での問題点を鋭く指摘した。

●**歯科医師の立場から(岩手県歯科医師会理事 児玉厚三)**

歯科診療所においても医療安全対策が改正医療法により義務化されたが、歯科医療従事者だけではなく、患者との良好な信頼関係を構築することが医療安全が成り立つ基盤であり、今までは「より安全に治療する」ことのみが強調されていたが、今後は「改正医療法の遵守」を基本にして、スタッフとともに系統的で「より高度な医療安全」を整備していきたい、と強調した。

●**看護師の立場から(岩手医科大学附属病院医療安全推進室専任看護師 菅原敦子)**

岩手医大では、患者誤認を確実に防ぐために「患者本人をフルネームで呼び、フルネームで答えていただく」、「同姓同名などを防ぐ意味で、生年月日の確認」などを行っている、と紹介した。中には面倒がって嫌がる患者もいたが、患者誤認による医療事故、医療過誤を防ぐ意味で重要なこととして、ポスターを作って目立つところに掲示し、またリーフレットを作って活用している事例が示された。

●**薬剤師の立場から**(岩手県薬剤師会常務理事 岩手県病院薬剤師会会長代行 工藤賢三)

薬は「諸刃の刃」であり、使い方によっては毒にも薬にもなる、という認識の上に立ち、薬剤師の果たすべき業務を詳しく紹介した。処方内容について疑問がある場合には処方医師に対して「疑義照会」を行うことが義務づけられていることや、薬暦の重要性、重複投与の危険性など、問題点を指摘した。最後に薬と上手に付き合うために「お薬手帳」の活用を参加者に呼びかけた。

●**臨床工学技士の立場から**(岩手県立大船渡病院MEセンター 菊池雄一)

臨床工学技士が医療安全に寄与できることは、医療機器を管理、取り扱いをする専門職として、安全使用のための研修を実施し、保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施、ならびに生命維持管理装置を代表とする医療機器全般の操作、技術を研鑽して医療に提供することで、医療機器に関する安全性の向上と信頼性を確保することである、などと強調するとともに、「輸液ポンプ・シリンジポンプと人工呼吸器の安全管理についての取組み」を紹介した。

共同行動キャンペーンポスターをご活用ください

- 医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”(日本版100K)
- 行動目標別キャンペーンポスター完成見本(目標1～目標8)
 - 公開ページ…[トップページ](#)
 - パートナーズ専用ページ…[トップページ](#)
- 行動目標別キャンペーンポスター基本デザイン(目標1～目標8)
 - パートナーズ専用ページ…[トップページ](#)

目標8の完成見本・基本デザインの修正版がアップされています(09/12/8)

★ウェブマガジン What's on Kyodokodo は、毎週金曜日に配信します

院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”

ウェブマガジン What's on Kyodokodo 編集室

〒102-0082 東京都千代田区一番町13-8 一番町KKビル3階 社団法人日本病院会内

TEL. 03-6380-9370 FAX. 03-6380-9371

E-mail: secretariat@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>